遲花の故事は、此多治比古王の生坐し時の事なるを、此水齒別命の御名も多治比云々と申せるから、此御事に誤り傳へたるなるべし、姓氏錄丹治宿禰條にも、書紀の如く云れど、彼は書紀に依てなるべし、抑書紀姓氏錄を誤として、後なる三代實錄にしも依れるはいかにと云に、此命は河內の多治比に都坐(ミヤコシキ)せれば、本より彼處に居住給ひて、其地名なることはいちぢるしければなり、

〔續日本紀二文武〕大寶二年正月乙酉、從五位下當麻眞人橘、爲齋宮頭、

〔續日本紀九元正〕養老七年十二月丁酉、放官婢花從良、賜高市姓、

〔續日本紀二十稱德〕神護景雲元年二月戊申、從四位下藤原朝臣楓麻呂、爲太宰大貳、

〔續日本紀二十稱德〕神護景雲元年十月壬戌、授從六位上賀茂朝臣萱草從五位下、

〔萬葉集十六有由緣幷雜歌〕昔者有娘子、字曰櫻兒也、

〔台記〕康治二年十二月八日庚寅、菖蒲丸六歲著袴、今度事、依永保三年入道殿、康保四年攝政殿等例所行也、是余藤原長賴長庶長也、余無嫡子、然而禮六十以前、不能立嫡、余以五月生、因名菖蒲若、以賞菖蒲之月故也、於五亦可爲假、此兒又以五月生、又名菖蒲、是又爲假、兼又可爲類、所以取父之號、若字者避父名也、

〔今物語〕安貞のころ、河內國に百姓有けるが、子に蓮花王といひけるわらはありけり、

〔源平盛衰記十六〕菖蒲前事

鳥羽院御中ニ、菖蒲前トテ世ニ勝タル美人アリ、

〔吾妻鏡四〕元曆二年○文治元年五月一日癸未、故伊豫守義仲朝臣妹公、字菊、自京都參上、

〔本朝高僧傳四十一淨禪〕京兆妙心寺沙門宗舜傳

釋宗舜、號日峯、姓藤、城州嵯峨縣人、母源氏、素有賢行、嘗詣法輪寺、禱男子於虛空藏菩薩、期以百日、期滿夜、夢有一高僧、出自堂中、持菊花而授、寤卽有娠、及產顏貌非凡、小字曰菊夜叉、